

4. 事業の概況（平成 29 年度）

◇全体的な概況

平成 29 年度の国内景気については、有効求人倍率が都市部を中心に高水準を維持していることもあり、日銀は景気判断を「緩やかに拡大している」としてはいるものの、足元の景気回復は実感のない状況が続いています。また、物価上昇が鈍いことから、日銀は長期金利をゼロ%程度とする緩和策を続けている状況で、金融機関にとっては資金運用難な状況が続いており、企業収支に大きな影響を与えています。

農政面では、平成 28 年 4 月に施行された改正農協法により、農協向けの総合的な監督指針が示され、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けた自己改革を進めていくことが求められたことから、自己改革に対する組合員の理解促進や、准組合員との関係強化の取り組みが重要課題となっており、当 J A では改革の実施状況等の調査のために正組合員・准組合員に対し、「J A の自己改革に関する組合員調査」の準備に取り掛かりました。

このような中、組合員の皆様と役職員が一体となり、各事業が第 2 次中期経営計画並びに第 5 次農業振興方策に掲げた施策を実践した成果として、平成 29 年度は事業利益で 455 百万円、当期剰余金で 397 百万円となりました。

皆様のご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。

以下、各事業の概況についてご報告いたします。

◇指導事業

政府からの「農協改革」の提起に対し、我々、J A ちばみどりが農家を支える営農振興事業の強化を掲げた、自己改革の取り組み「第 2 次中期経営計画」も 2 年が経過しました。営農振興方策の重点施策として、農家相談の基盤となる振興員の専門性の向上と、出向く体制強化のために、全農千葉県本部の「専門指導員」育成研修会へ参加し、3 月に土壤肥料専門指導員の資格を 4 人が取得しました。うち 1 人が 11 月に J A 職員を対象とした土壤肥料講習会の講師となり、職員の基礎レベルアップに努めました。青色申告相談では、源泉徴収勉強会、青色相談初任者研修、決算研修会と職員の習熟度に応じた青色申告相談研修会を開きました。その他、管内で被害が確認されている有害鳥獣対策や、営農振興員の優良な活動事例を報告する場を作り、農家へ訪問するために必要な知識向上と相談対応力を蓄えました。

消費者へ安全な農産物を届ける生産工程管理(GAP)の取り組み支援として、生産履歴記帳の精度向上、残留農薬自主検査ルールに基づいた分析、出荷物異物混入防止に加えて労働安全について講習会を実施しました。そうさ地区では「ちばGAP」テスト産地として小松菜を取り組み、ちばみどり園芸連絡協議会で実施内容について報告を行いました。安全・安心な農産物の更なる高みを目指すため、J G A P 産地リーダー養成研修に 1 人、J G A P 指導員定期研修に 2 人が受講しました。

6 次産業化への取り組みとしては、純米吟醸酒「みどりの舞」シリーズ 5 銘柄に続き、新たな産地商品として管内の野菜を材料に味噌汁づくりの取り組みを開始しました。

青年部活動では、常勤役員との対話集会、青年部親善球技大会を開催し、関東甲信越地区農協青年部組織協議会幹部研修会では、千葉県代表として青年の主張大会で発表を行いました。

女性部活動では、あなたに届ける J A 健康寿命 100 歳弁当コンテストに旭支部が出品、第 2 位にあたる「食べてみたいで賞」を受賞しました。また、移動健康教室を開催し、125 人が参加しました。

健康増進活動では、県インディアカ大会へ参加し、銚子支部が第 2 リーグで優勝と健闘しました。また、各営農センターを中心に集団検診を行い、1,169 人が受診しました。人間ドックの受診者数は、141 人とやや減少しましたが、動脈硬化症ドックについては、43 人と増加しました。

組合員の後継者育成のために、Happy²（ハッピーツー）による婚活イベント「素敵な出会い in C H I B A」と「銚子感動体験」を開催し、4 組のカップルが誕生しました。

外国人技能実習生受入事業では、担い手不足実態調査結果を基に監理団体として受入事業を実施しています。本年度は、技能実習新法の新制度への移行に対応し、監理団体許可証を受けました。受け入れ農家は 79 戸、技能実習生 143 人の受け入れを実施しました。

◇福祉・介護事業

行政・他事業所を定期的に訪問し、訪問介護事業所 32 人・居宅支援事業所 40 人の新規利用者の受け

入れに繋がりました。

L A・MAの事業検討会や女性部ミニディサービスへ参加し、組合員並びにJ A職員にJ A介護保険事業の説明を行い、介護保険事業の必要性についての啓蒙、認知度を高めました。

ホームヘルパー研修会の実施や各種研修会への参加など、介護職員の積極的な知識や技術の向上に努めました。また、J A介護職員初任者研修会を開催し、資格取得に向けて4人が受講しています。

介護利用者並びにホームヘルパーの支援拡充のためにサービス提供責任者を1人増員しました。増員によりサービス提供責任者は、延べ3人の配置となります。

訪問介護事業所の特定事業所加算Ⅱ（月額利用料の10%を加算）を取得し、収益の増加に努めました。

◇販売事業

[農 産]

米穀の取り扱い、買入価格提示による買取り方式となり集荷に取り組みましたが、もち米の価格低迷により集荷数量が伸び悩み、前年の集荷数量を下回る実績となりました。また、飼料用米の継続・拡大を行いました。

[園 芸]

年度前半は、露地野菜は順調に推移しましたが、施設野菜は出荷の集中により販売価格は厳しい状況となりました。

秋冬野菜においては、露地野菜が豊作型により価格が低迷し、施設野菜は天候不順による遅れとなりましたが、台風21号・22号により、販売環境は一転した反面、農作物への被害は甚大でした。

[畜 産]

豚の疾病や鳥インフルエンザの発生により、防疫対策の重要性が一層高められた年となりました。また、飼養管理技術の向上や計画出荷と堅調な販売価格により、前年実績及び計画を上回りました。

[直 販]

農家所得の向上に努め、販路の拡大とニーズに合わせた契約取引の拡大を図りました。また、生産組織の協力による販売促進活動の継続を行いました。

直売所「みどりの大地」では、多様なイベント等による対面販売と地産地消に努めました。

◇購買事業

[経 済]

一般高度化成肥料の製造コストを引き下げするために、10銘柄を6銘柄に集約し、1銘柄あたりの供給価格の低減に努めました。また、市況価格動向の把握と柔軟な対応に努めました。

[燃 料]

燃料価格の高騰に影響を受け、1年を通して高値で推移したため、供給高の増加となりました。また、施設園芸用ガスの推進を実施し、普及拡大に努めました。

[自 動 車]

各種研修会への参加及び自主研修を毎月実施し、知識・技能向上に努めました。

[農 機]

2月に旭地区、7月に銚子地区で農機展示会を開催しました。10月には全農千葉主催による農業機械大展示会へ参加しました。

また、修理中の農機具に対しての代車サービスと竹材粉碎機の無料貸出サービスを開始しました。

◇信用事業

貯金については、組合員・利用者へのサービス向上のため、J Aバンク千葉県下統一商品として企画した金利上乘せプランの、春得・夏得・冬得の各キャンペーンを展開しました。

また、年金受給者を対象とした国産農畜産物・特産品が当たる抽選券付年金定期貯金「結いの恵み」、地域と農業を結び付けるための農畜産物応援定期貯金「大地の輪」の取り扱いを実施しました。

貸出金については、専門性を発揮した相談業務を行うため、農業融資の知識向上を目的として、農林中央金庫千葉支店が取り組んでいる農業金融トレーニー制度（J A職員の受け入れ）に、職員2人を派遣しました。

また、平成29年10月に発生した台風21号・22号により被害を受けられた組合員に対し経営の維持・安定を図るため、J A独自の災害緊急対策資金を実施しました。

◇共済事業

「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供に向け、専門知識を有したライフアドバイザー（L A）を中心に、全職員による普及拡大に努めました。

長期共済新契約高は685億57百万円、年金共済新契約高は3億5百万円、長期共済保有契約高は6,302億19百万円、年金共済保有契約高は60億65百万円となりました。

共済金の支払額は、満期共済金32億97百万円、年金共済金22億57百万円、その他9百万円、事故等による支払額は、生命系共済11億16百万円、建物更生共済3億43百万円、自動車共済3億62百万円、その他1億2百万円で支払金額の合計は74億87百万円でした。

〈新契約高〉

満期（終身）共済金額合計	86億58百万円
保障共済金額合計	685億57百万円
新規共済契約者数（長期共済および自動車共済合計）	867人
新規被共済契約者数 生命総合共済（年金共済を除く）	589人
年金共済	125人

共済の保有高等については、以下のとおりとなります。

〈保有高等〉

満期（終身）共済金額合計	1,231億73百万円	（前年対比 99.5%）
保障共済金額合計	6,302億19百万円	（前年対比 97.6%）
医療系共済 入院共済金額合計	1億6百万円	（前年対比 103.5%）
介護系共済 介護共済金額合計	59億33百万円	（前年対比 106.9%）
年金共済 年金年額合計	60億65百万円	（前年対比 100.2%）
自動車共済 共済掛金合計	7億82百万円	（前年対比 102.1%）
共済契約者数（長期共済および自動車共済合計）	33,091人	
被共済契約者数 生命総合共済（年金共済を除く）	25,112人	
年金共済	7,964人	

◇組合が対処すべき課題

第2次中期経営計画並びに第5次農業振興方策を掲げた最終年となる本年は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を図るべく積極的に事業活動を展開し、「J Aちばみどりの目指す方向性」の達成に向けて事業展開に取り組んでまいります。

また、政府が求めている農協改革に対抗すべくJ Aの自己改革が求められていることから、組合員との対話を通じて、J Aの置かれている状況や自己改革の意義について理解を求め、中期経営計画の最重要施策の「見える化」に取り組み、自己改革の実施状況を把握するために、本年度は抽出した組合員に「自己改革に関する組合員調査」を実施します。

一昨年に発覚した不祥事により、二度と不祥事を起こさないよう再発防止策の実践により取り組んでおりましたが、旭自動車整備工場において国土交通省関東運輸局より行政処分を受けたことから、再び組合員・利用者の皆様に多大なご迷惑とご心配をおかけしてしまいました。今後は再三に渡る不祥事に対し、組合員・利用者への一日も早い信頼回復に向けて自店検査の実施や研修等を行ない、コンプライアンスプログラムの充実を図ってまいります。

5. 農業振興活動

○地域密着型金融への取り組み

農業融資においては担い手からの多様なニーズに的確に応えるため、農林中央金庫と連携し、専門性の高い職員の育成を行い、融資相談体制の拡充と出向く体制を構築しています。合わせて、各種農業資金を融資する際の利子助成・利子補給や、保証料のJA負担など、より良い資金の提供に努めています。また、顧問税理士・弁護士による相談会、社会保険労務士による年金相談会、担当職員による休日ローン相談会などの無料相談会を開催し、利用者のさまざまなご相談に応じています。

○安全・安心への取り組み

管内各地では、安全・安心な生産物を提供するため、生産履歴簿を作成し使用農薬を管理するとともに、残留農薬自主検査を実施しています。また、収穫1週間前の畑では、県内統一基準の桃色旗を立て、周辺圃場の生産者へ農薬飛散注意を促すなど、消費者の信頼性確保に向けた生産物づくりにも努めています。

○農産物ブランド化の取り組み

千葉県産ネギのイメージアップを目指し、2条トンネル栽培により5月に出荷するみずみずしくて、柔らかく美味しい夏ネギを「プレミアム夏ネギ」として出荷し、市場関係者からは高い評価を得ています。JAちばみどり、JA山武郡市、JA長生の九十九里地域に位置する3JA、生産者、JA全農ちば、県、県園芸協会が連携し、「オール千葉」体制で安定した出荷の実現に取り組んでいます。

○農業機械・農業用資材展示会

農業機械・農業用資材の展示即売会を、当JA農機センターで開きました。会場にはメーカーや販売店の協力により、新型の農業機械や生産・生活資材などを展示しました。当JA職員と各メーカーの担当者は商品説明をしながら、農業機械による農作業事故防止を呼びかけました。

○農業後継者や地域住民の婚活を支援

農業者の後継者不足や非婚・晩婚化対策の一環として、農業後継者や地域住民の婚活を支援する「JAちばみどりHappy²（ハッピーツー）」では、さまざまなイベントによる出会いの場を提供し、地域の活性化を図っています。

○産業まつりへの参加

管内各地域で特色ある産業・秋まつりが毎年開催されています。生産組織による生産物の販売や、青年部・女性部による模擬店では、生産者と消費者とのふれあいがあり、大勢の来場者でどの会場も大盛況でした。また、横芝光町と姉妹都市を締結する神奈川県松田町・長野県千曲市との交流により、管内生産物をPRしました。

○子どもたちに「食」の大切さを伝える

青年部や女性部では食農教育活動の一環として、管内の保育園などで子どもたちに「食」の大切さを伝えています。

青年部ではバケツ稲づくりなどを行い、作物を育てる大変さや楽しさを子どもたちに伝える活動に取り組んでいます。

女性部では簡単な調理体験を通して、自分で作り、みんなで食べる楽しさを伝えています。また、野菜の栄養価等について、紙芝居でわかりやすく子どもたちに説明しています。

○消費者と生産者の産地交流

都市部の消費者などを対象に、収穫体験を通じた生産者との交流を図るとともに、産地への理解をより深めてもらう活動を行っています。

6. 地域貢献情報

全般に関する事項

当J Aは、銚子市、旭市、匝瑳市、山武郡横芝光町（旧匝瑳郡光町の地区）を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が一体となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

当J Aの資金は、その大半が組合員の皆様などからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当J Aでは資金を必要とする組合員の皆様や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当J Aは、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、J Aの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助けあいを通じた社会貢献に努めています。

地域からの資金調達状況		地域への資金供給状況	
貯金残高	1,667 億 00 百万円	貸出金残高	188 億 47 百万円
組合員	1,272 億 47 百万円	組合員	133 億 93 百万円
地方公共団体	65 億 97 百万円	地方公共団体	27 億 89 百万円
その他	328 億 55 百万円	その他	26 億 64 百万円

社会貢献活動

○交通遺児育成資金への募金活動

交通遺児の救済や交通安全思想の普及・啓蒙活動として、「J A共済交通遺児育英資金募金運動」を9月から10月にかけて取り組んでいます。各店舗窓口へ募金箱を設置するとともに、J R銚子駅前では、当J AやJ A共済連千葉の職員が街頭募金活動を行い、同駅利用者などに募金への協力を呼び掛けました。お預かりした募金は、J A共済連千葉を通じて千葉県交通安全対策推進委員会へ贈り、交通遺児援護世帯を激励する見舞金や勉学奨励金などに役立てられています。

○「J A共済」交通安全施設設備金の贈呈

平成29年11月9日、銚子市へカーブミラー設置代として150万円の寄付を行いました。これは、J A共済事業における地域・農業活性化積立金を活用した社会貢献活動の一環で、地域の事故防止と安心して暮らせる地域づくりを目的としたものです。

地域貢献活動

○行政との連携協定

当J Aと旭市は、「災害時における石油類燃料の供給に関する協定」、「旭市高齢者見守りネットワーク事業協定」を締結しています。大規模災害等の緊急時には、同市より公用車や公共施設の復旧作業への燃料供給について要請があった場合には、優先的かつ迅速に対応し、復旧・復興を支援していきます。また、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けられる地域社会の実現を目指し、高齢者の見守りを行います。

○健康診断の実施

組合員や地域住民が日々健やかに過ごせるよう、管内各所で健康診断を実施しています。また、健康診断の結果をもとに、医師・保健師・栄養士による、より健康的な生活のためのアドバイス等も実施しています。

○支店・出張所による地域交流会

地域住民の皆様にも愛されるJ Aをめざし、支店・出張所を中心とした地域交流会を開きました。